

建設にかかわる多くの方々の「声」を紹介しています。前号に引き続き、一般財団法人 建設業振興基金(以下、建設業振興基金)建設キャリアアップシステム事業本部普及促進部長の東 真生さんに「建設キャリアアップシステム」についてお聞きしました。今号は、システムを活用した現場管理の効率化について掲載します。



「建設キャリアアップシステム」には、技能者の処遇改善、将来の担い手確保に加え、現場管理の効率化という目的があります。

社会保険の加入状況を手早く確認

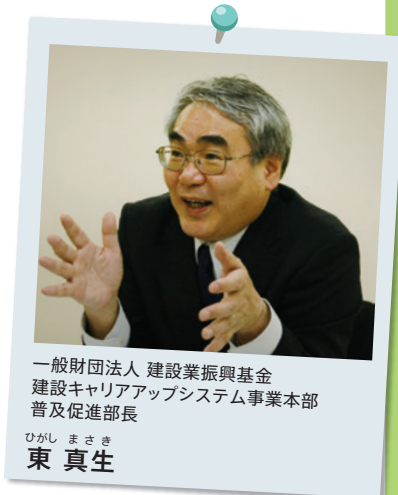
この4月から本格運用が始まった「建設キャリアアップシステム」には、前回お伝えしたような技能者の処遇改善、そしてその延長線上にある将来の担い手確保という目的に加え、現場管理の効率化という目的があります。

現場管理の具体例としては、社会保険の加入状況の確認が挙げられます。

元請け会社はまず、下請けの事業者に対して事業者自身やその所属技能者に関する情報の更新を促します。元請け会社はその一方で、現場情報を登録します。これに対して下請けの事業者は、更新された情報を基に施工体制登録を行います。

情報の更新・登録をここまで済ませることができれば、元請け会社は施工体制登録で作成された作業員名簿を基に社会保険の加入状況を手早く確認できます。下請けの事業者を通して必要書類の提出・確認を技能者に求めるというこれまでの手間が省けます。

またこの4月からは、働き方改革の一環として労働時間法制の見直しが始まります。これによって勤務時間の状況を客観的な方法で把握することが法律で義務付けられ、建設業でも5年後には残業時間の上限が法律で規制されるようになります。建設キャリアアップシステムはこうした中、技能者の労務管理にも役立てることが可能です。



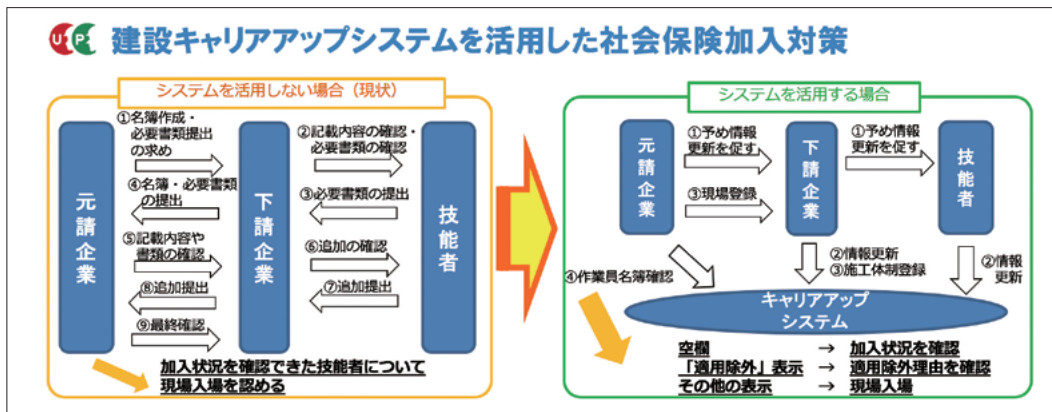
民間システムとの連携で活用に幅

技能者には技能水準によって当面は2段階に色分けされたキャリアアップカードが配布されます。現場入場時・退場時は、現場に設置されたカードリーダーにそのカードを読み込ませれば、入退場時刻がシステムに記録される仕組みです。

これまで技能者一人ひとりが作業日報を通じて責任者に勤務時間を報告していたような現場では、担当者がそれを手作業で管理しなければならず、重い負担が課されていました。ところがこのシステムを勤務時間管理の機能を持つ民間システムと連携させれば、手作業での時間管理の負担から解放されます。

このように建設キャリアアップシステムは民間システムとの間のデータ連携も想定しています。データ連携によって民間システム側は真正性が確保された情報を利用できるようになる一方、建設キャリアアップシステム側は現場管理の効率化に役立つ各種の機能を補うことが可能になります。

連携可能な民間システムは財団の審査・認定を受ける必要があります。認定済みシステムは専用のWebサイトで順次公開していきます。



資料提供: 国土交通省 建設業振興基金
関連ウェブサイト: <http://www.kensetsu-kikin.or.jp/ccus/>